

「住民共助」が実現させた 公共交通空白地100%解消

～そして新たなコミュニティの形成へ～



1 秋田県三種町

平成18年に旧琴丘町・山本町・八竜町が合併して誕生。

町名の由来
「三種町」の名称は、町の中央部を流れる「三種川」に由来しています。三種川は「長寿の種」「福祿の種」「楽の種」の三種の種を語源としています。

位置と地勢
秋田県北西部に位置し、西は日本海に接しています。東西約25km、南北約20km。南北に、秋田自動車道、国道7号線とJR奥羽本線が並行する形で縦断。

町の特徴
町の面積の半分以上が森林となっていて自然が豊かです。基幹産業は農業で米作りが盛んです。また、特産品のじゅんさいは日本でも有数の生産量を誇っています。町の最優先事項として、「住民共助」「子育て支援」「デジタル×グリーン×SDGs」の、まちづくりに取り組んでいます。

面積 247.98km²
人口 14,689人
世帯数 6,710戸
高齢化率 47.21%
※令和5年9月末現在

2 観光

釜谷浜海水浴場
～日本の快水浴場100選～
釜谷浜海水浴場は北に白神山地、南に男鹿半島を望む美しい砂浜で、映画のロケ地にもなった釜谷浜海水浴場。砂浜の奥には、映画のロケ地にもなった釜谷浜海水浴場。砂浜の奥には、映画のロケ地にもなった釜谷浜海水浴場。砂浜の奥には、映画のロケ地にもなった釜谷浜海水浴場。

伝説と信仰の山 房住山
修験者の道場として栄えた房住山は、多くの伝説に彩られています。峰一円には当時を偲ばせる三十三観音像が点在しており、登山者にやすらぎを与えてくれます。

森岳温泉郷
森岳温泉は、昭和27年に石油探掘中の田んぼの中から突然湧き出し、長く秋田の奥座敷として親しまれてきました。無色透明、弱アルカリ性で「とてもよっぱい温泉」として有名です。泉質にも優れた、美肌効果が高いです。

3 特産品

じゅんさい
三種町は日本有数のじゅんさいの生産地です。独特のヌメリとツルリとしたのが、じゅんさいの醍醐味。鍋や天ぷらでも美味しくいただけます。

そらめ
琴丘産そらめを使った豆腐や餃子なども販売されています。

メロン
当地が特産のサンキューメロンをはじめ、八竜地域は全国的にもメロン栽培が盛んです。

梅
観光資源や特産品として琴丘地域の顔となっている「梅」。素材を活かした加工品があります。

4 地域公共交通の確保維持に向けた「ふれあいバス」「巡回バス」の取組み

住民共助による定時・定路線のコンパクトなコミュニティバスが町全体を運行する取組みです

5 経緯

秋北バス4路線の利用者の減少、交通空白地が3割あったことに加え、平成29年、旧山本町内にあったスーパーが廃業し、同地域内にスーパーが1店舗もない状況。

★周辺住民から買い物に不便の声…

★本格的に交通再編に乗り出すことが急務

旧琴丘町で従来から運行していた町民バスを他地域でも運行してほしいという要望が増えてきた

これをヒントに
公共交通空白地を100%解消し、すべての町民が安心して外出できる持続可能な公共交通を目指す

平成30年4月 再編への道スタート!

6 編成前の町内の交通機関

以前の路線図

路線バス4路線(うち3路線が赤字)

町民バス2路線(旧琴丘町)

- 定時・定路線のコンパクトなコミュニティバス(ハイエース)
- 地元事業者へ運行委託
- 1回乗車:高校生以上200円、中学生以下100円
- 6歳以下の未就学児は無料

マイカー利用者の増加や人口減少等
路線バス・町民バスの利用者が減少
交通空白地 3割

7 検討初期

平成30年4月～
公共交通担当を決め
主担当1人+2人の3人体制

- 町民バスを町全体で運行したいが既存事業者への委託だけではドライバー不足で限界があるため、秋田県より横手市の地域公共交通の事例(住民共助運行)を紹介いただき、協議開始
- 町がイニシアティブを発揮し既存事業者の運行と住民共助運行を連携させた体制の構築へ
- 再編は旧小学校区の8地区にふれあいバスと3地域(旧3町)の拠点を結ぶ巡回バスを町が運行し、既存路線バスを集約する仕組み
- 秋田県からも補助金

最初は既存事業者の理解と協力を

1 町既存事業者と何度も丁寧に相談・協議

タクシー会社もドライバー不足で、たくさん路線の運行は難しい…
バス事業者も赤字路線とドライバー不足を抱えている…

お互いできることをしましょう!
(意思疎通のため何度も話し合い)

結果!

事業者の理解と協力を得ることに成功!

- 森岳観光タクシーさん→ふれあいバス1地区の運行
- 能代観光さん→巡回バスの運行
- 秋北バスさん→4路線を1路線に集約

8 町民に理解と協力を

2 町の担当者が60件以上の個人・団体のところに足を運んで協力を呼びかけ

自分たちにはできるのか? 事故など起きたらどうなるのか? 不安や心配…

町が主体となり体制を整えるので大丈夫!
町が責任をとりまします!
不安な点は相談してください!

たび重ねた相談・協議の結果住民共助組織(7団体)の立ち上げに成功!

町が支えてくれて、地域のためになるのなら、やってみよう!

9 住民共助組織立ち上げ後

3 住民組織の自主性を尊重

各組織から自ら担い手・ドライバーを募る体制
路線は自分たちで走って、時刻表を考える
事業者はプロの目線でアドバイス

平成31年4月 臨時職員1人増員
教育・建設・商工観光・健康推進・福祉といった幅広い部局とも連携

安全運転研修会
救命救急講習会

バス運転者の運転講習を実施(自家用有償送迎講習)
もしものために、町職員も受講

協力体制も整い、いよいよスタートへ!

10 公共交通空白地100%解消の実現

令和元年10月 三種町ふれあいバス・巡回バス 住民共助運行開始!!

実証運行期間: 令和元年10月～令和3年9月までの2年間
令和元年10月1日から11日までは「無料お試し乗車期間」
全区間無料で乗車可能

11 再編後の町内の交通機関

三種町バス路線図

運行範囲 三種町内全域 + 近隣市町

- 能代市(ショッピングモール、病院)
- 八郎潟町(病院)
- 男鹿市(五明光地区)

再編後

- ふれあいバスが町内8地区で運行(町民バスはふれあいバスへ移行)
- 町内3地域を結ぶ巡回バスを運行
- 4路線あった路線バスを1路線に集約

12 三種町バス運営・連携体制のイメージ

行政 三種町

- 公共交通サービス全体の運営管理
- 各組織への運営予算配分や車両貸与
- 各組織との情報共有や連絡調整等

この連携が確保され住民の利便性につながる

路線バス 秋北バス株式会社
「三種町-能代市」間の運行を行い、商業施設や病院が充実している能代市への移動を補完

ふれあいバス 住民共助運行団体(7団体) 有限会社森岳観光タクシー
町内を8地区に分け、それぞれの地区ごとで市町村有償送迎を運行
各地区から町内主要拠点または町外施設まで運行を実施

巡回バス 能代観光株式会社
町内主要3拠点(八竜ふれあいセンター、森岳駅、鹿渡駅)間を運行

行政が一方向的に公共交通再編を取り仕切るのではなく、それぞれの組織と役割を分担し、一定の権限を委譲することで運営が保たれている

13 住民主体で「くらしの足」を

共助団体の代表者と巡回バスの運転手が集まり、地域内での連携した運行ができるように連絡会を開き話し合い。それぞれの地区が抱える課題や要望を地域全体で解決していこうと連携を強化し、より利便性を高める対策を検討しています。

公共交通会議(三種町役場本庁)

山本地域ふれあいバス連絡協議の様子

利用者目線で時刻表を確認(琴丘地域ふれあいバス連絡協議)

14 利用者が増えて…

運行してみて、利用者の多い鯉川地区と上岩川地区のバスを7人乗りから10人乗りへパワーアップしました。

予備車両
定員数より多い利用者にも迅速に対応するため、三種町役場(八竜1台)、山本支所(1台)、琴丘支所(1台)、合計3台配備し、講習を受けた町職員がドライバーとしてカバーできる体制を整えています。

7人乗りから10人乗りへパワーアップ!

15 バスの時刻表

利用者の声を反映し、令和5年4月までに6回改正
J・Rや民間路線バスの情報についても包括的に掲載
乗継利便性を考慮したダイヤ
隣接する市町にも一部乗り入れ

全戸配布の時刻表(全20頁)

一部集落では予約体制も取り入れています

16

●乗車料金（町内の移動）

	高校生以上	中学生以下	6歳以下の未就学児
1回乗車	200円	100円	無料
1回乗車回数券（12枚つづり）	2,000円	—	—
1日フリー乗車	300円	100円	無料
1日フリー乗車回数券（12枚つづり）	3,000円	—	—

●乗車料金（町外へ移動）

	高校生以上	中学生以下	6歳以下の未就学児
片道乗車	500円	200円	無料

●運行時間
6：20～18：03までの間運行
【下岩川地区ふれあいバス（奨助号）】
◆近藤三男宅前……6：20発
【上岩川地区ふれあいバス（ほんじゅー号）】
◆小新沢……18：03着

●運行日 平日（土・日・祝日は運休）
お盆期間・年末年始は運休

●利用方法
夜はピカッと光ります！
どこでも乗り降りができます！
バスが目印に行灯！
乗りまーす！

●バス乗車によるポイント加算
乗車証明書を提示すると道の駅や温泉施設のポイントが加算され、バスの利用でもっとお得に。

●待合所
目的地によってはバスの乗り継ぎが必要になります。バスを乗り継ぐ際は、手元にある乗車証明書を手元のバスに渡すと、次のバスでまた新しい乗車証明書が手渡されます。

●停留所にもなっている温泉や商業施設や病院
◆商業施設は駐車場確保や待機場所の提供。
◆病院は帰りのバスの時間に合わせた診察の順番調整もしてくれます。

19

町広報に「みたねバスだより」を掲載

令和元年10月号から令和3年6月号まで毎月掲載。その後は不定期で掲載

バスを詳しく紹介

バス利用のメリット

バス利用のデメリット

バス利用の注意点

バス利用の楽しみ

バス利用の未来

17

●利用方法
夜はピカッと光ります！
どこでも乗り降りができます！
バスが目印に行灯！
乗りまーす！

●バス乗車によるポイント加算
乗車証明書を提示すると道の駅や温泉施設のポイントが加算され、バスの利用でもっとお得に。

18

●待合所
目的地によってはバスの乗り継ぎが必要になります。バスを乗り継ぐ際は、手元にある乗車証明書を手元のバスに渡すと、次のバスでまた新しい乗車証明書が手渡されます。

●停留所にもなっている温泉や商業施設や病院
◆商業施設は駐車場確保や待機場所の提供。
◆病院は帰りのバスの時間に合わせた診察の順番調整もしてくれます。

22

新たなコミュニティ

利用者
利用者

ドライバー
ドライバー

グループでの利用
人と人とのふれあい

通学利用者から感謝の手紙
小学校を卒業する6年生からサプライズの手紙をもらい、涙が出るほどうれしい気持ちでいっぱいになりました。（運転手：伊藤さん）

20

町長・副町長、乗車体験レポート

シミュレーション紹介

住民共助団体紹介コーナー

住民共助団体紹介コーナー

広報で7住民共助団体と2事業者を紹介し、より身近なバスへ

ドライバーを取材し、紹介しました

21

住民共助団体紹介コーナー

住民共助団体紹介コーナー

広報で7住民共助団体と2事業者を紹介し、より身近なバスへ

ドライバーを取材し、紹介しました

23

地域住民の役に立てることがうれしい！

顔なじみの運転手さんなので安心して利用できる！

みんなのバスノート

利用者の声より
週2～3回利用しています。乗り合いの方との会話をしながら乗っています。
自分で運転することをやめました。町内の移動に利用しようと思います。
三種町を越えて、五明光まで来てくれるのでありがたい。おかげで、買い物や通院ができます。
いつも、朝に学校まで送ってくれてありがとうございます。私もがんばります！

寄せられた要望は時刻表改定などにも活かされてきました。利用者の感謝の気持ちも届いています。

24

月別乗車人数の推移

4年目 30,357人
3年目 29,541人
2年目 26,625人
1年目 23,412人

利用者は徐々に増加傾向
月別で見ると、3月、6月に利用する人が多く、1月が少なかった。曜日別の利用人数は、月曜日と金曜日が多い傾向にある。

25

乗車人数の推移(6カ月毎)

乗車人数は増加傾向

年	月	乗車人数
R1	10月	11,149
R2	4月	12,263
R2	10月	12,862
R3	4月	13,763
R3	10月	14,440
R4	4月	15,101
R4	10月	15,214
R5	4月	15,143

26

平均乗車人数

4年目 126人/日 2,530人/月
3年目 122人/日 2,462人/月
2年目 110人/日 2,219人/月
1年目 98人/日 1,951人/月

運行開始から4年で約11万人の利用!!

これは平均すると4年で町民1人あたり約7.5回利用したことになります。

27

利用者の増加→考えられる理由

- 公共交通空白地を100%解消したことや、運行ルート上（危険な場所以外）であればどこでも乗り降りができるようになったこと等、利用しやすい環境を整えた。
- 毎月発行される広報にふれあいバス・巡回バスの取組を掲載するほか、全戸に時刻表を配布する等、積極的に情報発信を行った。
- 広報に各地区のドライバーの紹介記事を掲載したり買い物や温泉施設への利用の仕方を掲載したりする等、利用者が抵抗なくバスに乗れるように発信する内容を工夫した。
- 利用者の声を積極的に吸収し、令和5年4月まで時刻表を6回改正する等、柔軟な対応を実施した。
- ドライバーと利用者、または利用者同士によるコミュニケーションが利用促進につながっている。
- 上記取組の結果、町内におけるふれあいバス・巡回バスの利用方法や認知度が飛躍的に向上し、町内での利用浸透が図られた。

28

地域の活性化・にぎわいの創出

地域内外のアクセスが改善され、買い物利便性が格段に向上した。

町内のタクシー会社2社に運行委託することで、タクシー会社の経営安定化へ寄与。

ドライバーの親切で丁寧な対応が利用者から高い評価をうけており、新たな人脈・コミュニティの形成に。

ふれあいバスでは、文字どおり人と人とのふれあいが生まれ、それ自体を目的にバスを利用している住民もいる。

公共交通の再編によって多くのメリットが生まれ結果、地域の活性化・にぎわいの創出につながっている

スーパーのほか、温泉施設や病院など、生活に必要な施設がバスの停留所となっているため、かかせない足となっている。

運営側にとっては、住民の買い物機会が増えることで地域内の事業者の売上増加につながり、一定の経済効果を生み出すメリットも。

観光・イベントに來町の方にも利用していただくなど、町外の方の利用も。

ドライバーにとっては、公共交通の一端や地域の見守り役を担うことで地域への貢献を感じられ、自身の新たな生きがいとなっている。

29

今後の課題

将来のドライバーの確保

◆人口減少に歯止めがかからない状況下で、安定的にドライバーを確保することは容易ではない。

ドライバーの負担軽減

◆キャッシュレス化も検討

町全体の人口減少と高齢化が進行するなかで現在の体制を維持していくには、より効率的な運営手法の検討が必要

30

今後の目標

すべての人が安心して外出できるように
町民の声に耳を傾け
人口動態や生活様式の変化などに対応しながら
安全で利用しやすい運行の継続を目指す



佐竹知事(中央)に報告する町長、議長、共助団体関係者

ふれあいバス・巡回バス事業 秋田県内初!
国土交通大臣表彰を受賞!!